

下野コミュニティエフエム第5回放送番組審議会議事録

開催日時：2021年5月27日(木)	開催場所：下野市役所第304会議室
出席委員：猪瀬・鈴木・山内	3名

※発言については趣旨を変えない範囲で一部を編集しています。

また、運営に関する事項や事業者の発言についても一部省略しています。

委員全5名のうち3名の出席をもって会の成立とし、10時30分に開会した。

1. 報告事項

事業者より挨拶と運営について報告があった。

・挨拶(ケーブルビジョン株式会社代表取締役)

コロナ禍の中で新年度を迎えたが、当審議会もみなさんにお集まりいただき本日開催させていただいた。番組制作においても、イベント等の中止といった状況で、思うような制作ができていないところもあるが、そういった状況も踏まえて、今年度から新たな形の番組制作をスタッフ一同模索しながら頑張っていきたい。

・運営状況(ケーブルビジョン株式会社ラジオ事業部管理責任者)

2019年12月20日に開局し、およそ1年半経過した。

現在1日11時間の生放送と、それ以外は録音等で24時間放送を行っている。

市民を中心に募集したパーソナリティが26名在籍している。

現在、聴取者は着実に増えている状況で、番組へのメッセージが現在、月に約900通程、1日30通ぐらい番組に届いていて、着実に浸透しているのではないかと考えている。

ただ、代表取締役先ほどが触れたように、開局して直ぐにコロナ禍となり、イベントが中止になったり、予定していたものが出来なかったり、企業との連携も図りづらくなり、市民への露出という部分が十分に出来ていない部分もある。できるかぎりそういった形で市民への周知を図っていきたい。

また、新型コロナウイルス関係だが、下野市と連携を取り、現在接種も始まっており、一層の情報提供を行っているところである。

・新任委員挨拶

猪瀬委員(下野市商工会事務局長)・鈴木委員・山内委員(下野市観光協会事務局長)

・委員長選任

委員の互選により山内委員を委員長に任命した。以下、委員長が議事を進行した。

2. 審議事項

・議題①…番組内容について

事前に送付した資料(記録物)を各委員が聴取し、それに対して委員が意見を述べた。

※2021年5月7日放送「くらしパレット」

山内委員長：

普段は移動中の車の中や余裕のあるときに自分の部屋で時々聴いている。聴く機会は少ないが、時々聴いている。最初の頃は、市民から選ばれたパーソナリティの方も、素人さがある面白かったが、最近は皆さん慣れてきたようで、しかも元気が良い方が多くいる。明るく喋っているので、内容的にも伝わりやすいし聴きやすい。

番組の中にも所々地元の情報や生活に必要な交通情報や天気情報も入っていて、生活に役に立つ番組になってきているのではと感じた。

夜寝るときに、音楽の番組を聴いていたりするが、懐メロが多いのが嬉しい。所々聞き覚えのあるものが入ってきて、懐かしい感じがする。最先端ばかりでなく、こういうものほのぼのしてローカルな感じでいいのかなと思う。

猪瀬委員：

アナウンサーがイントネーションを気をつけている。ローカルでほのぼのした。

10時から12時の番組をたまたま聴いた。はたしてこの時間帯にちゃんと聴いている人がどのくらいいるのか。対象者について、タイトルのところに「暮らしに役立つ」というようなこともあったので、ということは職場では聴けないだろうからそうすると運送関係の方、車を使って移動する方、あとはご自宅で聴く方、専業主婦の方が中心になるのかなというところで、暮らしに役立つ話題をっていうのは、キーワードとしてはぴったり合っているのかなという印象があった。

事前資料のCDに、ペニーレインの話があり、商工会の事業関係で参加していただいたことがあり、那須発信で宇都宮にもあるのだが、ビジネスの対象者を伸ばしてきたんだなと感じた。ゴールデンウィークのあとだったが、話題性としては、終わった後より先に案内ができれば。GOTO関係で出歩くなというさなかだったので、そのへんもあったかな。

鈴木委員：

今回の話があるまでは番組を聴いていなかったが関心はあった。車内で聴く際、同乗している妻が興味を持って聴いている。やはりこういう関係があると聴く。草刈りの仲間にも「FMゆうがお聴いてる？」と言うようになり、人づてに聴くということも重要なことかなと思った。

また、「くらしパレット」のコンセプトはどのようなものか。

事業者：

対象は主に在宅の主婦や高齢の方で、暮らしに役立つ情報、ちょっとした話題をお送りしている。のんびりお茶でも飲みながら聴いていただくコンセプトで、番組内容や、またパーソナリティの人選もできる限りそういった雰囲気考慮して行っている。

今回事前資料で聴いていただいたパーソナリティも普段は主婦業で、例えば生活の知恵とか、子育ての話題等、日々の暮らしの話に共感していただけたらと考えている。

鈴木委員：

内容はともかく、主婦という概念が崩れている時代。

まず、20代30代40代50代、働いている方が非常に多い。世帯構成の中でお宅にフルタイムいらっしゃる方はほとんどいない。

そういった意味ではこの番組はのんびり聴くのにいいと思うが、今後のことを考えると、高齢者をターゲットにするといいのでは。

また、地域で活動をするビニールハウスからラジオの音が聞こえる。農作業をしながら聴いている方が多いと思う。自分も草刈りの時はラジオを下げている。そこでも情報が大切で、特に天気や交通情報。天気予報はだいぶターゲット天気予報になってきていて、下野市だけでも出てくる。ただ、下野市といっても北と南とでは違うので、市役所庁舎、笹原、などといった細かい情報があるとよい。交通情報も、市内はあまり渋滞がないが、周辺の情報や、地域を絞った情報も欲しい。

事前資料の「暮らしパレット」では、担当のパーソナリティが栃木訛りがなくスムーズに話されていて、プロのようだった。一般の方にしてはセミプロ級。話題がスムーズに転換され、身近な話題を持ってきていた。

ただ、よく聴くと、これ大丈夫かな、という話があった。

一つ目は、ゴールデンウィークに娘が帰ってきて大変だったという話だが、当時政府が「ゴールデンウィーク実家に帰らないように」としていた時期であったし、あえて触れなくてもよかったかと思う。那須に行った話は、朝早く行って客がほとんどいない中で散歩しながらおいしい朝食を食べました、と、感染対策をして行ったという印象だった。

非常にいい、このタイミングに合った話だったのかなと。

しかし、どう聴いてもお嬢さんが東京から帰られたと理解でき、電車での移動は遠慮すべき時期だったのかなと、個人的には少し気になった。そういったことを気にされているお年寄りには「大丈夫なの？」という感想も出るのでは。

また、交通情報での地名に、「とちぎ博^{はくばし}橋付近」を「博橋」としていたのが気になった。地元の人には「とちぎ博・橋」ではないか。とちぎ博というのがあって、それを記念して作られた名前なので「とちぎ博・橋」で、「博橋」はどこの橋だろうと違和感がある。

さらに、高根沢の「元気アップ村」を紹介した際、「高根沢元気・アップ村」と言っていた。どう聞いても文字の区切りとアクセントがおかしい。聴いている人は「あれこの人行ったことあるのかな」という感想になったかなと。

全体的には編成趣旨に沿った内容でとても良いが、気になったところ。

事業者：

パーソナリティも市民構成を反映しているのかというところで、地元出身者も多いが、結婚でこちらに転居してこられた方も多い。出身が市外・県外のパーソナリティも恐らく3分の1程いる。

地名・人名については、地元の生まれ育ちのパーソナリティでも間違えることもあり、全部の地名を憶えるのは難しい。指導はできる限りしているが、今後も一層注意したい。

コロナの関係も、パーソナリティ個々の発言であっても、放送局として管理上の責任はあり、注意をしていきたい。

・議題②…編成等について

番組編成その他について委員が意見を述べた。

山内委員長：

(マガジン) 2号にはパーソナリティの紹介があった。多くの方がパーソナリティとして活躍されていて、せっかくの地元のラジオなので、パーソナリティの情報なんかを載せてあるといいのでは。

市内だと知っているパーソナリティがいて、知っている人が出ていると聴く気になる。番組表に担当パーソナリティの名前があってもいいのでは。曜日ごとに担当が変わるので細かくなってしまい見にくいかもしれないが。より身近に感じられるようにしては。

鈴木委員：

番組の構成のようなものがあるなら資料としてほしい。交通情報等の構成のざっとしたものがあれば話の展開がわかる。

番組の間にBGMのような音楽がずっと流れていた、あの音楽だけの時間は何か。

事業者：

番組構成を表にしたものがあるので資料として検討する。

BGMのような音楽は、CMタイムにCMがない部分は音楽で穴埋めをしているもの。

鈴木委員：

(マガジンに)お店の情報があるが毎回同じでなく、各店舗のPRが特集であってもいい。

(マガジンVol. 6の) 8・9ページにあるトウサワトラノオの特集記事は非常にいいが、今年は咲いていない。記事を作ったのはもっと前だと思うので、こうなる予定ですよ、と聞いたことだろうが、実際配布されたのは今で、これを見て行って見たらがっかりされる。今年はなぜかわからないがぼやぼやしか咲いていない。この情報で行かれた方はがっかりするだろうと気になった。

編集の時期を考えるとなかなか難しく、新聞と違いタイムリーというわけにいかない。

なので、「残念ですが今年はだめでしたね、来年に期待しましょう」のようにすれば。

山内委員長：

「トウサワトラノオ、今年はできが悪いようでしたね」などと、ここには載っているが今年は残念でしたのような、そんなことを番組で話したことはあったのか

事業者：

記事を監修していただいた農政課さんに確認したところ、全然咲いていないとのことで、あまり大々的に触れてしまうとがっかりされてしまうというのもあるり、微妙な扱いではあったが、少し咲いてるようだというリスナーからの情報があったことだけを伝えた。

山内委員長：

載せたことと違ってしまったことをタイムリーに伝えることができるのがラジオなので、違ってしまったこともフォローできる。生きた情報、「少し咲いている」と知っていけばがっかり感はないと思う。タイムリーな情報を発信できると良いかなと感じた。

山内委員長：

(クラブゆうがお)加盟店で特典があると紹介しているが、各店でどれくらい使われたか、どれくらいの利用者数か、統計は取っているのか。

事業者：

取っていない。統計を取るとなると各店にお願いをしなくてはならないが、ほとんどが個人経営の小さな店だったりなのでそこまではお願いできない。気軽に加盟してもらえようとするため、そこまでのお願いをしていない。

山内委員長：

カードを持っているが出すのを忘れてしまう。もっと有効に使えるとお店に足を運んでくれるお客さんが増えたりして、加盟店も加盟したメリットがあるのかなと思う。

カードはどれくらいの方が持っているのか。

事業者：

現在2千弱発行している。引き続き増やす努力をしていきたい。

鈴木委員：

番組内で下野商工会の野田副会長さんが出演されていた。地元商工会の活動について、しもつけポイント倶楽部の説明で、副会長は「国分寺の商店で使える」と説明していたが、しもつけポイントカードは南河内の道の駅しもつけでも使用できる。

リポーターが「下野商工会の」と訂正すれば良かったのではと思う。難しいが。

山内委員長：

正しい情報を伝えるというのはもちろんだが、そこまでは気が付かないのでは。

鈴木委員：

番組では難しいが、流れてしまうと皆さんそう思う。市の市制説明や市議会もそうだが、その人の発言しているものが全体だと捉えられる。発言される方も気をつけなければと。とは言え、原稿をずっと読まれるのはがっかりしてしまう。その点、インタビュー形式というのはわかりやすい。ただ、わかりやすいが、相手の発言だけただ聞いていると危ない。今回はそこまで大きな事ではないが。一般の方を出すのは難しいなと感じた。

・議題③…委員の選任について

一般公募により応募のあった小島・根橋両氏の選任について、賛成多数で承認された。

3. その他

次回開催については6月末頃を想定しているが、状況を鑑みて改めて通知したい旨の提案が事務局よりあり了承された。

以上、12時00分に閉会した。

以上